



向陵広場

発行号 第28号
発行日 平成30年4月12日(木)
発行元 向陵編集校友会
責任者 伊藤有司(県10回卒)

豊商同窓会五代会長 辻村 良夫 (県商3回卒) 昭和29年3月卒



辻村 良夫 氏

私は昭和26年4月、豊橋商業高校に入学した。この年、「豊商」は県立豊橋商業高等学校として、再編され発足した時であった。

校舎は旧陸軍工兵隊の兵舎であり、真ん中に廊下で教室が分かれており、日当たりの悪い状態であった。

私が豊商へ入学したわけは、家が煉瓦の製造、販売をしており、長男である私はその家業を継ぐべく父の強い希望であった。勉強は簿記とそろばんだけ覚えてくればよいといわれ気楽な気分であった。それで部活に力を入れようと思い、多少自信のあった陸上競技部に入部した。競技部では短距離走を得意とし、3年間、みっちり競技に取り組んだ。

1年生の時初めて走った40m走。東三河高校大会で5位入賞し、この種目はいける、面白いと思い400mの練習を中心に励んだ。競技大会シーズン中の練習はあまり記録的には伸びが少なく、調整する程度に思われ、面白みがなかった。しかし、冬季練習に入り、毎日500m以上のロード練習をやっていると、数か月くらいで成果が出始め、筋力、ジャンプ力等がついてくるのがよくわかる。そのうえ、持久力も上がってきた。こうした冬季練習の結果、1年間で3秒、その次の年も3秒と、記録を短縮することができて本当に面白く、楽しい競技であった。

大会での思い出の1番にあるのが、全三河選手権大会での400m走1600mリレー走の優勝である。この大会参加者は、一般、大学、高校であり、決勝戦でのメンバーは走ったことのない連中ばかり、私の身長は160cmと小柄。他の選手は皆大柄である。400m走決勝。私のコースは第8の一番外側スタートから後ろの選手の足音だけを頼りに一度も他の選手を見ることなく逃げ切れた。

この大会最後のプログラム、1600mリレー決勝。わが豊商3走者が第2位でアンカーの私にバトンタッチ。1位との差、数mあまりあり、これはとても追い抜くことは大変だなあ。と思いながら走っていると、横に並ぶ事ができ、最後のひと頑張りテープを切ることができた。

経済調査部の活動(昭和28年)

その後の大会400m走で県高校選手権で優勝。中部陸上選手権大会3位入賞等がある。忘れることができない全三河の大会であった。平成29年2月享年81歳にて死亡 (豊商の群像Ⅲより抜粋)

この大会最後のプログラム、1600mリレー決勝。わが豊商3走者が第2位でアンカーの私にバトンタッチ。1位との差、数mあまりあり、これはとても追い抜くことは大変だなあ。と思いながら走っていると、横に並ぶ事ができ、最後のひと頑張りテープを切ることができた。

その後の大会400m走で県高校選手権で優勝。中部陸上選手権大会3位入賞等がある。忘れることができない全三河の大会であった。平成29年2月享年81歳にて死亡 (豊商の群像Ⅲより抜粋)



体育大会の珠算競走(昭和27年)